

# S.G. Report

No.3

## ユニセフ水俣病研修ツアー

日 時：平成26年7月11日（金）本校発、県庁経由で水俣へ

参加者：60名

引率者：本校教諭（鶴濱、坂西）

目 的：（1）全国のアフリカ人留学生と水俣で交流（海外留学生と共に学習する水俣フィールドトリップ）  
（2）留学生との異文化交流と共に地元の青年と「持続可能な開発」をテーマに話し合う交流会を通じて、環境問題への視野を広げる

## こんな事をしました!!

### 11:00～ 出 発!!

他校生やアフリカからの留学生と共に、水俣へ向かいました。車内では水俣病について英語による説明を聞き、留学生とも英語を用いて交流をしました。



### 13:30～ 水俣到着!!

水俣病に関する映像を視聴し、資料館内を見学しました。実際に水俣病患者の語り部でいらっしゃる永本賢二さんより水俣病の恐ろしさを、幼少期の体験談を聞きました。



### 15:30～ 分科会参加

『持続可能な開発（水俣病を起こさないために）』というテーマで井芹 道一様（熊本日日新聞社 編集員兼論説委員）より All English による講話を聞きました。熊本の水の美しさを再確認しました。



《ブルキナファソ大使との写真撮影》



生徒の感想 (抜粋・おおむね原文のまま)

言語の異なる人とコミュニケーションをとることは、とても難しいことなんだと思いました。自己紹介程度のことはできましたが、普通の会話とかは難しくてあまりできませんでした。でもアフリカの人たちはとてもフレンドリーで、向こうからたくさん話しかけてきてくれたので、とても助かりました。また、アフリカの方たちは、自分の意見をしっかり言っていてすごいなと思いました。[ST]

アフリカの人と交流するととても貴重な経験をすることができました。アフリカの人と交流することは今までなく、とても緊張していました。しかし、アフリカの人にはフレンドリーな人も多く、とても楽しい1日となりました。 ～中略～

今でも水俣病は大きな問題であり、すでに解決されたものではありません。だから水俣病の患者の方には、がんばってほしい、と他人事にとらえるのではなく、自分が、という意気込みで他人事では終わらせないことが大事なのだと思います。その後の講話では英語で通訳の機械もなく、あまり聞き取ることができなかったけど、その後のディスカッションに驚きました。アフリカの留学生は積極的に自分が思っていたことを発言していました。そのディスカッションに加わることができずに、ただ聞いているばかりでした。僕はタイベートもやっていて、そういう経験はしていたので、少しショックを受けました。

今日のアフリカこどもの日で学んだことは多かったですが、見つけた課題もありました。だからまたがんばります。[OG]